

本日のテーマ「何かの役に立った本」

実施日：2024年5月19日

1 「誰も教えなくなった、料理きほんのき」

鈴木登紀子／著 2020年 小学館 【596ス】

この本に出会わなかったら、いつまでもテキトーな調理で調味料を入れていたことだろう。料理1年生からすると、「へえ〜」の連続です。

2 「その下ごしらえ、ホントに必要？」

松本伸子／教える人 野田真外／教わった人

2022年 幻冬舎 【596.0マ】

手抜きとしてはいけいではなく、品種改良や保存技術の向上により、必要がなくなるといことがわかり、慌々として手間が省けます。

3 「楽しく作る！おいしく食べる！はじめてのリボベジ&収穫野菜」

岡井路子／著 2014年 日東書院本社 【626.9】

種や苗を使わずとも、スーパーで買った野菜の切りくずで育てることが出来ます。節約と日頃の癒しにオススメです。
(※野菜の種類によります)



4 「やってもやっても終わらない名もなき家事に名前をつけたらその多さに驚いた。」

梅田悟司／著 2019年 サンマーク出版 【590.4】

結局、その家事はやらなくてはいけいなのだが、それとやらがしているのは私だけではないからいいんだ!! という安心感を得られます。

5 「体が整うツボの解剖図鑑」

福辻鋭記／著 2019年 エクスナレッジ 【492.7】

ケガや病気じゃないんだけど、なんか調子悪いなあ...って時に、ちょっとこぶし押し、お試しあれ。

6 「uka が教える大人のハンド&ネイルケア」

渡邊季穂／著 2021年 主婦の友社 【595.4】

毎日の基本的なケアから週に1回のスペシャルケアまで幅広く紹介してあります。手荒れでお悩みの方はぜひ!!



7 「どうぶつのかたち練習帖」

秋草愛／著 2019年 パイインターナショナル 【724.5】

いざ どうぶつを描いてみようとすると、首がどうなるのか、足がどこから生えてくるかわからない...。この本は、どこから描いていけばいいのか、描き順を教えてくれるのでわかりやすいです。



8 「老いてこそ、スマホ」

牧壮、増田由紀／著 2023年 主婦と生活社 【PC007.6】

スマホを使っていたい世代、そして、親にスマホの使い方を覚えてほしい世代にお薦めします。「辛抱強く親のスマホの練習に付き合うことが、最終的に自分の身を守る」... それはわかっているんだけど...



9 「推しことば類語辞典」

山口謡司／監修 じじい／マンガ・イラスト 2021年

笠倉出版社 【Y814.5】

とどまるどころ知らない好きなもの=推しへの感情を言葉にして人にオススメです。推し活がはかどります。

10 「二次元世界に強くなる現代オタクの基礎知識」

ライブ／編著 2017年 カンゼン 【361.5】

死海文書とか、ホムンクルスとか、バシゼブウとか...ちゃんと元ネタがあります。知っている、あのアニメやマンガがより一層たのしめるかも知れません。

11 「文庫本は何冊積んだら倒れるか」

堀井憲一郎／著 2019年 本の雑誌社 【020.4】

出版社ごとに文庫を積み上げ調査をしています。1位は新潮文庫でした。なぜだと思いませんか? 何の役に立つかわからない本に関するトピックスが詰まった本です。

12 「目でみる数字」

岡部敬史／文 山出高士／写真 2020年 東京書籍 【410.4】

重さや長さなどのサイズ感を目で確認できる写真集です。硬貨の下寸など覚えておくと、何かのときに役立ちそうです。

※ 「銀の匙 volume1~15」

荒川弘／著 2011~2020年 小学館 【マ//ア】

※ 「プーさんのお料理読本」(未所蔵)

A.A.ミルン、ケーティ・スチュアート／ほか著 1980年 文化出版局

※ 「最新理論を人生に生かす「量子力学的」実践術」(未所蔵)

村松大輔／著 2023年 サンマーク出版 【147】

※は、投稿や読書会カフェで参加された方に紹介していただいた本です。